

◇令和元年度（平成31年度） 南丹市学校・園自己評価書◇

【 南丹市立美山小学校 】

◎評価については、「A・B・C・D」の4段階表記とする。（A：十分な成果が見られた、B：成果が見られた、C：やや課題が見られる、D：課題が大きい）

評価領域	南丹市教育委員会「学校教育指導の指針」に基づいた実践の方向性	自校における課題に対する取組の具体的達成目標	成 果	達 成	課 題	課題に対する次年度に向けた工夫・改善策
(一) 豊かな人間性の育成	「主体性・対話的で深い学び」の実現	○「主体的・対話的で深い学び」を目指し、ともに学び合うことを大切にしつつ、どの子ども「わかる・できる」が実感できる授業改善に取り組む。児童全員に対する「指導の工夫」と同時に、個別の指導計画・教育支援計画を活用し、「個別の配慮や支援」のある授業を行う。 ※児童のアンケートで、「学習内容がわかる、できる」と肯定的な回答80%以上 ※個々の支援に、タブレット等を日常的に活用した授業を実施する。	○校内授業研究会（事前・授業・事後）をすべての学年で行い、成果・課題を共有しながら、日々の授業に向かうことができた。 ○6年生では、参観日に特別支援の理解教育（視覚障害）を実施し、児童・保護者ともに理解を深めることができた。また、4年生では、総合的な学習の時間を中心に、町内施設への訪問・ラン伴への参加・車椅子体験学習等「福祉」をテーマに取り組み、一人ひとりが大切にされている美山の福祉を再認識することができた。 ○6年生では、支援の必要な児童だけでなく、必要に応じてどの児童もタブレットを使用して学習することができるという環境を作ることができた。通級指導の中でも、タブレットを活用して個々の児童への支援につなげることもできた。 ※児童のアンケートで、学習内容が「わかる・できる」と肯定的に回答する児童 80%	B	○教員の指導力のさらなる向上を図る。 ○新学習指導要領の全面实施を踏まえ、評価方法に関する工夫改善を図る。 ○個別の教育的ニーズに対応できる学習機会や校内支援体制で支援できるようにする。	○校内授業研究会や他校での研究会・研修会を通して、授業実践力の向上を図る。 ○めあてや見通しを持たせたり、振り返りを児童に意識させた授業展開を工夫する。また、個別・グループ・全体と形態を工夫し、練り合う時間や発表・表現するなどメリハリをつける。 ○個別の指導計画・教育支援計画を活用と評価・見直しを行い、学びやすい学習環境をつくる。 ○校内の支援体制のあり方や体制を整備する。
		○校務支援システムを効果的に活用し、校務処理の省力化・効率化・見える化を図り、業務改善をさらに推進する。 ○会議の目的・内容を明確にし、分掌会議・運営委員会等を計画的に開催する。会議資料を事前に配付するなどの工夫をし、短時間でより効果的な会議を行い、勤務時間の効率的・効果的な活用ができるようにする。 ※業務の効率化が図れたと実感する教職員が80%以上 ※年間を通して、「金曜日は、午後7時に帰る」と回答する教職員が80%、「金曜日以外は、午後8時には帰る」と回答する教職員80%以上	○校務支援システムを活用して、通知表等を作成し、校務処理の省力化ができた。 ○会議の終了時間を意識した会議時間の設定や日々の連絡・確認事項や児童の状況等については、週2回の朝の職員打合せの時間を活用して行うことができた。 ○教頭が仕事の様子も見ながら声掛けや助言をすることで、在校時間を意識して勤務できる教職員が増えてきた。 ※業務の効率化が図れたと実感する教職員が60% ※年間を通して、「金曜日は、午後7時に帰る」と回答する教職員が50%、「金曜日以外は、午後8時には帰る」と回答する教職員50%	C	○これまでの慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性がないものは、見直ししていく。 ○授業準備・児童と関わる時間等が確保できるよう教育課程を工夫改善する。 ○年間行事計画や各学年の取組の見直しや検討をする。	○事前に資料を準備・配布するなど効率的に職員会議等ができるようにする。 ○校務分掌を活かし、校務・業務の役割分担を明確にする。特に、行事等の取組については、担当者が、教職員を協働的に・組織的に動かすことを意識して、提案をする。 ○土曜活用をできるだけ少なくし、年間授業時数を確保できるよう年間行事計画や各学年の取組の見直しや検討をする。（土曜日・日曜日には、地域の行事や社会教育の取組に参加できるようにする。）
(二) 安心して学べる環境の構築	生徒指導の3機能を生かした指導の充実	○同学年や異学年との活動・取組を通して、児童同士のつながりを深め、自己存在感・有用感を高める。 ○人権教育を基盤とし、一人一人大切に活動を進捗する。 ※児童のアンケートで、「仲間のために力を発揮した、役に立っている、喜んでもらった」等で肯定的な回答80%以上、「自分のよいところを知っている。仲間のよいところを知っている。」で肯定的な回答80%以上 ※保護者アンケートで、「親にとって通わせたい学校である。」等で、肯定的な回答80%以上	○児童会や人権旬間の取組、運動会等の異年齢での活動を通して、児童が互いを認め合うという意識を高めることができた。また、高学年が、下級生をうまくリードしリーダーシップを発揮することができ、自己有用感を実感することができた。 ○児童委員会の活動として、校内放送や図書の出貸や給食時等の日々の活動に、自覚をもってきちんと取り組むことができた。 ○朝会や給食時や発表会等全校児童が集まっている場面や教室で、話し手の方に体を向けて、「聴く」ことができる児童が増えてきた。 ※児童のアンケートで、「仲間のために力を発揮した、役に立っている、喜んでもらった」等で肯定的な回答85% 「自分のよいところを知っている。」で肯定的な回答70%、「仲間のよいところを知っている。」で肯定的な回答85% ※保護者アンケートで、「親にとって通わせたい学校である。」等で、肯定的な回答85%	B	○自分たちで考え行動しようとする自主性・主体性を育てる。 ○仲間と協働する活動を通して、自己肯定感・自己有用感を高める。 ○自分の考えや行動を自分自身で振り返り、規範意識や人権意識を高める。	○日常の関わりや授業での指導、特別活動の取組を通して、活躍できる場面を意図的に作る。 ○人権や自分自身・仲間に関することに重点を置いた年間指導計画を作成し、道徳の指導にあたる。
		○遊びや運動の楽しさと喜びを味わいながら、体力と運動能力の向上を図る。 ※児童のアンケートで、「運動が好き、体力づくりに頑張りたい」等で、肯定的な回答80%以上 ※体力テスト（ソフトボール投げ）で、記録を20%以上アップ（4月当初より）	○中間・昼休み・放課後等、体育館やグラウンドで遊ぶ児童が増えている。 ○陸上や駅伝の練習に高学年を中心に積極的に取り組むことができた。 ○朝活動の時間には、児童全員が参加した体力づくり（マラソン・縄跳び）を継続することで、体を動かすことや仲間と活動すること楽しさを体感させることができた。体育の授業とも関連させることで、基礎体力の維持・向上につなげることができた。 ○教育創造事業を受けて作成した器具をグラウンドに設置し、体育の準備運動等で活用することを通して、10%程度記録を向上させることができた。 ※児童のアンケートで、「運動が好き、体力づくり頑張る」と肯定的に回答する児童 85% ※体力テスト（ソフトボール投げ）で、記録を10%程度（4月当初より）	B	○朝の体力づくりの時間の効果的な活用と体育科の授業での運動量を確保できるよう授業を工夫する。 ○健康作りや体力向上に関して児童や家庭へ啓発する。	○朝の体力づくりの取組の継続と体幹づくりを意識した体育の授業を実施する。 ○保健・学校だより等を使った啓発や食育に関する授業等体づくりに関する授業を計画的に実施する。
(三) 環境の地域を学ぶ、地域で学	地域社会をキャンパスとした学習の充実	○コミュニティ・スクールとして、地域と協働で、教科横断的に地域の自然・産業・仕事・人々の思い等から学ぶ活動を展開し、地域を深く学ぶ学習の充実を図る。 ○熟議への参加を積極的に促し、美山中ブロックとして連携して進める教育への理解を深め、「美山の子ども」として地域協働の子育てを進める意識をさらに高める。 ※児童のアンケートで、「地域のできごとに関心があるか、地域の行事に参加しているか」等で、肯定的な回答が90%以上 ※保護者・地域のアンケートで、「地域のをよさを学ばせている、地域に親しみ・関心を持たせている、興味を持たせている」等で肯定的な回答90%以上 ※保護者の1回以上熟議への参加数 家庭数の3分の1以上	○芦生グリーンワールド・ホームステイ・カラフル野菜など、地域と協働した取組を教育課程の中で実施することができた。準備・計画段階から、関係者と学校・地域コーディネーターを交えた会議を実施し、それぞれの関係者が主体者意識をもって取り組むことができた。また、継続して取り組むことのできる足がかりとすることもできた。 ○町内各地域の団体が多く参加いただいた中で、第7回目の熟議を実施することができ、地域学校協働本部を立ち上げに向けての足がかりにすることができた。非常に有意義なものであったと、多くの参加者から意見をいただいた。 ※児童のアンケートで、「地域のできごとに関心があるか、地域の行事に参加しているか」等で、肯定的な回答が80% ※保護者・地域のアンケートで、「地域のをよさを学ばせている、地域に親しみ・関心を持たせている、興味を持たせている」等で肯定的な回答90% ※保護者の1回以上熟議への参加数 家庭数の6分の1（25名）程度が参加	A	○新学習指導要領の全面实施を踏まえ、取組等についてのねらいや6年間・学年の年間計画の見直しと、地域と協働できる取組について検討する。 ○地域コーディネーターの積極的な活用や学校運営協議会や地域学校協働活動に対する保護者への啓発を行う。 ○熟議への保護者の参加が少なく、保護者の思いや考えを知ることや取組等に反映させにくいところがある。	○年度内に、地域コーディネーターと連携し、取組のねらい・年間計画を検討する。 ○学校運営協議会の運営等について中学校と密に連携する。 ○学校運営協議会や地域学校協働活動に対する保護者への情報発信や取組への参加の呼びかけや参加しやすい場の設定等の工夫をする。